
学校臨床の新展開

— ㉔居場所なき子らの生活保障Ⅲ —

浦田 雅夫

京都造形芸術大学

お金が無かったら

お腹が減って、減ってどうしようもなく、でも、お金がなかったらどうするだろうか。誰かに、頼んで何とかお金を借りたり、何かを食べさせてもらったりするのはないだろうか？ でも、頼る人がいなかったら？

チャーシューとメンマを盗む

26歳の無職の青年は、空腹を満たすため、かつて4年間働いていたラーメン店に侵入し、倉庫のカギを壊してチャーシューやメンマなど4000円相当を盗んだ。その姿は店の防犯カメラに映っており、店主はすぐに警察に通報。翌々日に男性は建造物侵入の

容疑で警察に逮捕された。

逮捕時、男性は家に、わずかな現金があっただけで、電気、ガスは止められていた。家の中は空のカップ麺やペットボトルが散乱していたという。

近所の人は、「ゴミ屋敷」状態だったともいう。

辞めたとはいえ、4年間働いた店に窃盗に入るだろうか？ それも食べ物（現物）を盗るだろうか？

続かない仕事

彼は、仕事が長続きしない。高卒後、塗装会社に8か月、食品工場に5か月、建設

会社で7か月。一番長いのが侵入したラーメン店で約4年。その後、警備会社で数か月働いている。ラーメン店時代の月収は16万。正社員には登用されず、ずっとアルバイトの身分のままであった。店主によると、正社員希望だったが、能力的に仕事を任せることができず、「ほとんどしゃべらず、コミュニケーション下手。怒られたりすると、ぶつぶつ言って、仕事がいっぱい、いっぱいになるとパニックになって皿を割ったこともあった」という。

殺人容疑で逮捕

彼は、ラーメン店への侵入で逮捕された後、近隣で連続して2件発生していた高齢者を狙った強盗殺人事件の容疑者としても逮捕された。93歳の女性Aさん、81歳の男性Bさんを殺害し、Bさんの妻80歳に重傷を負わせた罪で。

「食べ物と金がほしかった」

「仕事がうまくいかず、金に困っても相談する人がいなかった」と語っている。

盗んだものは、93歳のAさん宅では、米、さきイカなどの食べ物と、現金5000円。

81歳のBさん宅では、りんごを2個。何れも侵入時、居合わせたAさん、Bさんを殺害し、Bさんの妻には重傷を負わせている。

わずかな食料と、わずかな現金を得るた

めに人を殺すだろうか。

「高齢者が住んでいそうな平屋建ての家を狙った。高齢者なら抵抗されないし、そこそこのカネを持っているだろうと思った」彼にとって、そこそこの金とは、どのくらいあったのだろうか。

消費者金融で、100万円以上の借金があったということも考えると、そこそこの金とは、借金を返済するほどの金のことだったのだろうか。

「見つかったら刺そうと思っていた」とも語っているが、実際に、刺し殺さねばならないほどの内容なのだろうか。

死刑判決

2016年7月20日、前橋地裁で裁判長は「高齢者を無差別的に狙い、悪質極まりない。犯行は執拗（しつよう）で残虐」「通り魔的な無差別犯行。命をもって罪を償わせるのもやむを得ない」と述べ検察側の求刑通り死刑の判決を彼に言い渡した。被告側は即日控訴している。

児童養護施設出身者

ここで、この事件を取り上げたのは、彼が児童養護施設出身者であるからだ。彼が2歳の頃に両親が離婚し、4歳から中学校

卒業まで児童養護施設に入所している。先輩や同級生からいじめを受けたという。高校時代は福島県内で祖父母と伯母と暮らしたが、伯母と折り合いが悪かったようだ。関係者は、「同居の伯母と不仲だった。家の電話を使わせてもらえず、駅の公衆電話から仕事の電話をかけていた」と証言する。

高校時代の同級生は「いじめられていたわけではないのに常に一人でいた」という。

高卒後、一時期、自立援助ホームへ入所していたという。

いちばん長く働いたラーメン店の店主は、「手に職を付けて、食べていけるように」

との思いで採用した。散髪代を渡したり、仕事を覚えられずに「辞めたい」と相談してきた際には、引き留めたりと、気に掛けてきたという。

彼は精神科医に「人生をやり直す気持ちはない。今までの人生がつらかったから」と漏らしたという。

彼の心には、誰もいなかったのだろう。

家庭がうまく機能しない時、学校や社会的養護は何ができるのだろうか。

(朝日新聞を中心に複数の記事を要約しています。)